14

京阪紙工 株式会社

段ボールメーカー独自の対消費者向け製品

ボストンのジャパンフェスティバル

今回導入したカッティングマシン

「@プロジェクト」の簡易トイレ

事業内容

数少ない3層強化段ボールメーカー

重量物の輸送の際に梱包に使用される3層強化段ボールの製造がメーンで、国内の輸出メーカーなどに梱包箱や緩衝材の製造・販売を行っている。最近では輸送する際に利用されてきた木箱や木製パレットが制限され、段ボールによる梱包状態が好まれる傾向にある。同社は大阪府下でも数社しかない3層強化段ボールを製造できるメーカーだ。

対一般消費者向け製品への展開

同社は昭和56年に創業、昭和58年に設立された。創業当初は3層強化段ボールの全売上高に占める割合は約30%だった。それが平成12年に中国が木製梱包材に対して制限をかけたことにより、中国向け梱包箱に段ボールが使われることが急増した。この結果、現在では売り上げの約80%が3層強化段ボールとなっている。また3層強化段ボールを用いたトイレなど、対一般消費者向け(BtoC)のユニークな段ボール製品を展開している。

補助事業

カッティングマシンを導入

段ボール箱は生産コストを考えてスピードを重視した生産加工機で作られている。ただ、一般消費者向けの段ボール製品を作る際はデザイン性などを出すことができなかった。また厚みが15㎜もある3層強化段ボールの試作品などを製作する際はカッティングマシンを持つ外注先に依頼しなければならず、多くの手間とコストを費やしてきた。そこでカッティングマシンを導入し、自社で3層強化段ボールに対して複雑なカット加工をできるようにした。

複雑形状にも対応

工場内の空きスペースに“設計室”を新たに設置。その設計室に収まる縦置き型のカッティングマシンを購入した。3層強化段ボールに対する加工精度について試したところ、複雑形状のカットや今までは難しかった小さな穴も空けるのを確認した。

具体的成果

新製品が海を渡る

カッティングマシンの導入により複雑な形状にも対応できたことで、3層強化段ボールによるバーベキューコンロや非常用ストーブ、組立式舞台などの開発につなげた。特に「ステージキッズ」として商品化した組立式舞台は、大阪府枚方市の淀川河川敷で行われたイベントで能舞台に使用されるなどの成果を上げている。さらに米国のボストンで平成29年4月30日に開催された「ジャパンフェスティバル」では和太鼓演奏の舞台として使われるなど、しだいに「ステージキッズ」の知名度が広がっている。

独自ブランドの幅が広がる

今までは通常の段ボールが使われてきた一般的な“BtoC商品”にも3層強化段ボールで提案できるようになった。通常の段ボールの場合、強度を持たせる加工が必要で、設計やデザインの面で制限があった。しかし、カッティングマシンの導入で素材自体に強度がある3層強化段ボールを加工できるので設計の幅が広がり、従来品との差別化も図れるようになった。3層強化段ボールを使った簡易トイレなどを展開する同社のブランド「@(アット)プロジェクト」にも新たなラインナップが加わる予定である。

今後の戦略

身体にやさしい製品

一般消費者が求める商品をさらに展開していく。そのためにもニーズを吸い上げ、クオリティーを追求した新製品を提案していく。一般消費者に求められる製品には「強さ」、「軽さ」、「意匠性」が必要。特に「軽さ」はこれからの少子高齢社会ではより求められる分野だ。例えば、「ステージキッズ」は今までの舞台設置作業のような重い骨組みの運搬などが必要なく、段ボールの組立だけで身体への負担が少ない。段ボールという素材の特殊性を熟知している同社ならではのクオリティーの高い独自製品を作り上げていく。

段ボールにこだわり過ぎない

新規製品の基本的な方向性は強化段ボールを使ったものを考えている。しかし、最終的に完成した製品に強化段ボールを必ず使用する、というようなこだわりはない。もちろん、新規製品の試作では今回導入したカッティングマシンを使い、スピーディーに強化段ボールの試作品を製作する。ただ、段ボールの特徴をわかっているからこそ、一般消費者が求めるクオリティーを強化段ボールで十分に満たせないならば、段ボール以外の違う素材も積極的に利用していく方針だ。

京阪紙工 株式会社

代表取締役 住谷 正司

〒574−0064 大阪府大東市御領3−5−60

TEL. 072−873−8393 FAX. 072−873−8372

資本金／10,000千円 従業員／11名

主な取引先／産業機械メーカー、工作機械メーカー、精密機械メーカー、建設機械メーカー、自動車部品メーカー、電子部品メーカー

主な保有設備／断裁機2台、印刷機2台、連切機2台、ステッチャー4台、サンプルカッティングマシン1台など

主力製品／輸出梱包用段ボール、重量物用段ボール、段ボールパレット

短納期 企画力 小ロットOK オンリーワン技術 量産OK 試作OK 連携力

振り返ると独自のポジション

代表取締役 **住谷 正司**

夢中で強化段ボールの商品を作ってきました。振り返ってみると、結果として他社と違うことをしてきたと思います。一般消費者のニーズに対応する、諦めない、という気持ちで新製品の開発に努めていきます。

http://keihan-shikou.com/

取材を終えて

原点を見つめながら

強化段ボールでさまざまな製品を開発してきた京阪紙工。カッティングマシンを設計室に設置したことで、「浮かんだアイデアをすぐにカタチに出来る」と住谷社長はうれしそうに語る。設計室の横にある事務所には、「段ボール製商品を開発するようになった原点」となった段ボールで作った木のオブジェが飾られている。自身の原点を大事にして、機能性と意匠性を兼ね備えた段ボール製品をこれからも追究していく。